



溪山藏書

執

卷

四

四

入達13  
2003  
4







あるむねに曰

この世の事なりけりとも  
甲子年北条の事あり  
有るは妻の事なり  
さほくともいふれど  
いれど思ふも  
かまはれど  
山吹の花の黄も  
つねに替ひ  
泣状は  
けしむ踏の柳垣乃  
かそく  
とくまうは  
を禱ふ

と續ぐて再か  
さんとせ  
主君良治公  
良治こそ  
止まを  
の方狂  
こが短慮  
海のうら  
こそま  
九  
山

丸  
山





これなるや花の才の如うて死んともそぢひひらひららんは。こぞも本  
 意をいひしつめと公底をいひあてられ。社節花も衝撞のうら。喃や花  
 とのち花のも。斯知をいひしつめと益なり。女の公も最浅く。皇敷土  
 右のを言鎌を。金その人にとぢひひらひら。加之衝撞この由縁あり。違  
 州ぬしと小袖を脱入。おぢひひらひら。其場はひらある離状  
 を拾ひあげ。君の怒の及いられ人遠あると。試諭得る。行等おひひらを  
 びち。怜れしとせよ。才の罪人悔の八千とびらわれども。おひも諸の海士の  
 刈。もろり成。為。国房のうら。君の誘入を才の若る。女めし。自害し。  
 吃のうら。人。横切も。才の如く。彼切く死ねは。社節花を。少  
 へ不使ともいひひら。未まらぬ夫婦ごと。つ。サせくひら。強つ  
 ち。おぢひひら。女。花。も。候。撫。も。ひ。これ。も。今。と。なり。お。枝。の。ひ。り。も

ま。なり。の。才。の。命。も。人。面。目。な。し。僅。の。金。の。よ。つ。中。も。お。ぢ。ひ。ひ。ら。が。仇。と。なり。お。ぢ。ひ。ひ。ら  
 を。千。に。い。は。し。る。金。銭。の。て。ん。謀。と。ん。浅。く。公。の。志。の。深。ま。が。そ。の。人。の。心。  
 4。増。こ。と。お。ひ。ひ。ら。も。我。妻。な。が。う。も。大。恩。ある。才。を。討。果。ま。ん。と。せ。一。冥。冥。の。怨。  
 地。の。才。の。報。ひ。さ。う。く。後。の。も。主。君。の。禱。を。さ。う。く。逢。州。の。成。殺。せ。ん。主。を。討。  
 の。育。ま。り。極。重。悪。人。の。仕。方。位。唯。生。活。陀。と。き。時。に。唯。念。仏。を。頼。り。ま。  
 さ。し。生。死。の。雲。を。消。除。し。階。光。の。華。基。同。定。の。密。地。の。再。命。せ。ん。と。後。入。  
 息。を。吻。つ。さ。苦。痛。を。さ。せ。し。眼。を。さ。さ。り。や。社。節。花。の。才。の。さ。し。で。は。  
 疾。も。お。ぢ。ひ。ひ。ら。も。殊。に。い。は。し。る。罪。な。し。才。ぞ。行。卒。底。の。養生。し。く。お。ぢ。ひ。ひ。ら。も。跡。  
 を。吊。し。し。ぶ。つ。べ。も。是。か。が。り。さ。う。う。と。言。は。し。て。刀。を。引。し。ら。ん。ん。ん。ん。  
 なる。其。心。の。お。ぢ。ひ。ひ。ら。も。つ。ん。お。ろ。う。の。変。を。い。ひ。ひ。ら。の。二。葉。の。常。盤。に。て。一。  
 大。芝。松。や。ま。し。野。中。の。案。山。子。儂。漂。も。独。へ。し。ぬ。世。の。さ。め。し。才。が。死。去。

のひまぎ 竹条ながし 人居りて べき。杜鵑花ぬしをよきとけんとかりひもの。此方  
 もとより 養生して。壁生草のついでも。そのひまぎんとかかぶる。言ひ  
 主のひまぎも。激もよとのまはして。杜鵑花の痛疾うちこまされ。お枝どのよ  
 こめてふめりつ。お枝どのに今とれ。言ひも懲り身んとよそおひり  
 さるわして。釈して今とれ。死して今とれ。免にも角にも我夫  
 の清きぐんくもふらつ。雪の折し弱竹や。水にかけそふ波の逆さまに  
 おけき。昔ひ出ひあつ。一杯の水一枝の花。向くもらま。我夫と  
 つひうけて又よと。はさる花にお枝を。側の屏風にかけし小袖を。おろ  
 させ。さて言ひ。我所所のさる花と。略人よ。あつ。才が兼く。覚悟も  
 實に。乱ま。公言。ま。つら。ま。面も。氣を。お。せ。と。か。つ。竹の  
 ずの。つ。れ。の。才。も。我。も。は。疾。け。ら。存。命。べ。も。お。り。人。も。小。袖。の。我。下

長ひそくおろし。燕子花の百色から。お枝を。結入の。其下の。ま。つ。幸  
 なる。おれを。若。智。一。對。と。先。や。家。政。を。際。く。ま。と。と。深。疾。の。憂。せ  
 ども。和。才。と。起。し。小。袖。を。と。り。て。肩。の。ち。あ。る。も。最。苦。い。げ。り。ま。ら。於。枝。を  
 る。の。忍。び。ま。実。や。く。て。傍。の。ま。ら。も。帯。ひ。を。持。び。つ。介。抱。る。も。杜。鵑。花  
 の。才。を。ま。ら。し。在。り。の。ち。ら。ま。逢。州。ね。と。三。入。面。の。合。せ。ま。ら。も。纏。の。ま  
 せ。ま。と。死。級。を。袖。の。け。り。も。ら。も。又。標。も。つ。千。行。の。涙。お。枝。の。不。斗。お。づ。ま。  
 夫。の。ま。そ。原。竟。の。の。あ。つ。と。腰。の。つ。け。る。風。片。ま。を。包。も。う。ひろ。げ。是。ぞ。昨。夜  
 逢。州。ま。の。ま。の。ひ。ま。の。桂。か。り。幢。幡。の。つ。ら。つ。て。あ。る。商。者。へ。お。り。ん。と。首。の。做  
 衣裳。の。り。も。ら。ち。お。づ。べ。と。お。り。あ。つ。杜。鵑。花。主。の。成。為。体。お。り。ん。と。公  
 丸。持。ま。ら。も。幸。ま。ら。も。お。れ。を。逢。州。ね。の。廻。の。形。代。も。お。り。ん。と。こ。り。お。れ。ね  
 五。下。花。も。つ。り。も。ら。の。昨。夜。逢。州。を。殺。し。つ。ら。つ。て。桂。の。中。で。脱。も。ら。も。こ。り。の



鮮血に染ま。唯板金別れて踏どめ。泥のあとの跡。見れば。死の刻に  
 氣もささ。心も乱さ。苦しくもあつ。うんぬに。唯一声。咄び。斯く悲し。殺  
 害も。やま。ま。だ。れ。れ。公男。老死。去。却。て。其。方。の。仇。を。す。り。と。数。回。嘆。息。は  
 々。時。に。初。更。の。詩。声。惶。々。と。ひ。き。色。に。挿。さ。る。一。樹。の。櫻。爛。漫。と。咲。か。し。が  
 風。の。よ。そ。ら。ま。き。ま。く。く。と。落。そ。ふ。を。信。度。さ。り。の。杜。鵲。花。こ。れ。の。ま。ど。頃  
 時。角。休。と。つ。つ。昔。内。才。と。密。に。通。せ。し。を。土。右。衛。尉。又。足。跡。さ。き。既。に。刑。罰。を  
 お。と。ま。ら。う。べ。く。り。し。も。永。和。三。年。三。月。中。旬。北。上。川。袖。の。波。の。花。の。さ。け。ら。う。所。と  
 日。久。異。な。う。と。い。く。と。も。遂。に。花。下。に。命。を。果。さ。し。是。宿。世。の。う。の。物。束。と。さ  
 不。由。ま。ぬ。ま。の。棒。の。末。の。世。に。か。ら。う。傳。人。男。も。女。も。行。状。正。し。ま。ざ。れ。ば。洗。ま。し。ぬ  
 死。を。り。も。と。ら。ふ。の。教。の。ま。ま。と。い。ふ。に。杜。鵲。花。も。い。と。苦。い。げ。に。眼。を。足。用  
 こ。ま。と。れ。お。や。う。其。時。に。牧。山。の。長。福。寺。の。の。飯。路。遠。山。尼。公。の。命。試。う。け

結城の元七郎景氏が娘千世法師姫がつらうら。宿世にそれといふ今世を  
 唄ひの才の鼓弓と妻が琴を合奏せん。縁に成むまびい。とらちひりし。が  
 宿世のちり成りてつ。宿世の才の似合。世のさうに彼今世を胡蝶  
 せんといひうけ。壁のかけ。鼓弓をさう。ちろさせ。術と猿よりせ先。ころそ  
 の清護。くれ。が。花。も。う。ち。微笑。それ。は。て。ま。そ。我。妻。あり。お。く。ま。せ。と  
 とま。り。又。尺。八。を。さ。う。出。吹。合。せ。れ。ど。息。り。ま。う。つ。ふ。涙。の。あ。ら。う。の。ま。れ。ど  
 つ。ら。う。の。妹。と。脊。や。恋。慕。な。ら。の。仇。の。あ。ら。う。の。鼓。弓。呼。及。の。糸。入。て。魂。の。空。に。悔  
 志。尾。梓。の。ほ。ふ。の。あ。ね。ど。の。鼓。弓。の。ら。の。音。の。そ。う。一。世。の。親。子。二。世。の。夫。三。世。の  
 三。の。三。の。糸。ま。れ。ま。ち。う。ち。調。子。を。ど。う。く。ひ。れ。ま。う。

月。う。な。あ。ら。う。の。中。宿。世。の。の。す。ま。い。の。は。り。と。ほ。る  
 月。う。な。あ。ら。う。の。中。宿。世。の。の。す。ま。い。の。は。り。と。ほ。る  
 月。う。な。あ。ら。う。の。中。宿。世。の。の。す。ま。い。の。は。り。と。ほ。る

すい光れふ代とまくはせよとれておりうや  
しよせりもまきく社母へや

今世能辨世忘の今やうをさへみよと本朝光四考のこえう

と唄ひくるが日頃好と大ろの姉ふりまよ青色も清とて鳥あつてらさされ  
ごいこ憐れまよさうさうのからかりし袖をとも不し四十むゆりの男と二八斗  
の娘と門の外に傍徨彼男茶一く嗽してあれは風流特は焼四竹のうち合せ  
昨夜のよは今もさびに唄ふ礼を真し小哥ら世又まろ魚屋梅高の草子  
がさく三弦の奥山挑雲がふもさういれは拙まうさうらせての後まらせぬ  
と。こまむいん似む板扉のまあのとてとれおとて三弦をいとよんがくひれ  
やうけまぶ娘の愛教つとて四竹を双のふらうち合せつとてみりう  
【源氏物語の娘】まよふあまきま説法がまぶるまよとて茶の頃おひらう

水を洒つ小枝をいふめ。臥具の飾の室咲にこけい色香のいと  
かろまなも花の都の柳巷の夜とん時に逢州自他どた愛つ  
まわれつ御本どうも。門のうら人かちらうをまらうと男一平よ  
猪絶の格の君をあまやの松甲斐もな。外に出羽つらると柘  
栂の小柳とるもまよさ使ふせく。茶屋がむらひの堀地ら  
屋を連る音とどに。まのび逢ぬりそのりつとにや。端よま  
柳のまるとれ松のまよ。越この月やうまくにあらや因を  
涙のまれらうてやく才の血汐のまら

勢州回山にこころいふ小ぶの同田山田川崎町の住し魚屋梅高草  
子とくる者の作する音の音頭小ぶもあまし作者は梅高川  
崎町よ位が中への川崎音頭と。伊勢音頭とよまらるるまら



五郎藏

五月廿二日

五郎藏  
 杜能花  
 鼓弓に尺八の  
 笛を吹合せ  
 死を潔く



五郎藏

五月廿二日

小便無用







せし。女子の姿にゆづりつゝの。お枝もうち敬まき今もそのまゝとて、そのづゝをすの  
 け言出づ。おひさや外面の忍びく夢んとん。よくく入まぶ兒顔  
 あつ。克もくねてまきぞ。その母上なり。うらうら。恋娘なつう。やと抱  
 らせ。歎きさる。さて彼男さ。寄て。小みん切子とやま。一奇の奴僕なり  
 が。往年奈衣平といふ者に嫌き。内圓の旅し。隙の忘見。さ々の往方  
 まま。寄居虫さぬをり。まの。せ。四くを偏歴。周く款を索巡る  
 と。い。今い。あつ。近曾華落の。ひ。け。け  
 程遠くぬ長堤の下に。蛸舎。は。時。つ。て。玲。と。る。油。と。の。故。と。る。  
 寄居虫さぬも頃日恋。と。お。不。母上。の。回。令。さ。ぞ。敬。ひ。ぬ。ん。と。い。ひ  
 くら。お。枝。さ。て。切。子。の。と。や。ん。が。赤。紅。も。逢。州。や。の。お。か。さ。い。て。く。も  
 ま。ま。夫。の。毛。さ。ま。家。の。曲。子。を。う。み。つ。う。良。久。く。行。々。寺。由。縁。あり

て。外面の忍びて居つる。やうんと。扱。り。の。切。平。又。曰。おん。身。の。帯。の。む。ま。ひ。の。ひ。る  
 中。ま。世。の。希。や。る。金。蔓。鈴。の。て。け。も。佛。と。か。る。ど。愧。ず。る。音。の。鈴。と。せ。ぬ。ひ  
 され。寄居虫さぬ。眼。を。あ。く。さ。う。け。夫。お。え。に。小。築。垣。に。そ。よ。く。一。世。一。什。を。夢  
 つ。る。先。回。つ。ら。お。枝。の。の。言。ま。ふ。む。ら。が。た。と。あり。寄居虫さぬ。む。ら。び。吾  
 備。の。と。逢。州。や。の。お。か。さ。い。と。ま。ま。その。逢。州。や。と。や。ん。の。何。ホ  
 の。人。の。や。と。い。ひ。さ。ま。お。枝。の。涙。握。あ。く。む。逢。州。や。と。異。人。の。ま。ま。一。奇。の。お  
 乃。女。寄居虫の。姉。と。い。の。ま。ま。忘。見。の。柳。巷。に。く。ま。う。ら。び。つ。た。か。り。と。寄。て  
 寄居虫。小。築。を。蹴。と。う。ら。と。こ。の。姉。上。の。は。柳。巷。に。在。と。や。神。さ。う。ぬ。月。の  
 努。ま。う。て。近。ま。の。居。を。ト。せ。ま。直。奉。念。む。る。祝。世。音。の。冥。助。や。う。ん。母。上。は  
 う。の。恋。を。な。つ。れ。姉。の。人。に。今。の。せ。り。人。と。い。ひ。つ。終。り。る。衣。の。袖。を。打。返。し  
 花。街。の。縁。に。む。す。く。姿。つ。く。と。外。と。歩。の。窠。ま。き。次。女。に。く。妹。の。ら。ひ。て。訪。ふ。は





あけさうし。稍あつてのひらら。年頃暮ひ。母上姉上回舎のあひなぐ。ほ  
 ま。は。光景は。さうして。は。やう。の。何人を。怨ん。是も。又。宿世。の。約。ま。の。  
 め。さ。り。昨日。逢。入。な。が。笑。ひ。て。三人。は。さ。う。の。顔。と。顔。と。は。あ。は。さん。の。一。日。お。て  
 くて。あ。ち。の。や。是。喃。姉。人。家。居。虫。が。さ。ぐ。ね。て。来。て。は。い。ぞ。夜。妹。の。さ。き。と。  
 一。言。の。い。ま。下。逢。州。と。い。は。長。が。昨。夜。人。に。殺。さ。ま。つ。と。略。人。の。い。み  
 を。曲。子。に。つ。つ。て。切。平。も。う。と。も。家。の。門。は。さ。ら。ま。う。ぬ。と。い。言。ま。う。  
 姉。の。い。れ。を。世。に。さ。う。い。の。つ。つ。の。業。う。は。ま。と。お。枝。が。袖。に。さ。う。さ。う。の。歎  
 果。ぞ。も。ん。さ。ま。ま。切。平。の。さ。う。と。て。さ。悲。し。い。宣。や。ま。と。姉。上。志。見。さ。る  
 と。い。て。成。知。せ。ぬ。わ。ら。び。か。方。な。し。其。曲。子。が。媒。て。母。人。に。回。舎。の。い。み  
 姉。さ。ま。の。導。の。い。れ。疑。ひ。さ。う。い。の。う。の。一。有。君。の。宣。の。縁。由。を。母。人。に  
 さ。ま。あ。げ。父。の。仇。を。討。つ。と。て。所。要。さ。う。と。い。ひ。懸。く。ま。さ。お。枝。曰。一。有。君

の。非。令。の。死。の。逢。州。や。浅。田。の。君。に。お。が。う。身。を。命。門。を。隔。て。夢。居。る。が。談。の  
 後。を。ま。あ。つ。ま。と。や。い。り。て。素。身。と。言。ま。の。つ。つ。う。家。居。虫。も。恨。を。お。ひ  
 あれ。ぞ。い。へ。る。禮。法。も。あ。ら。ね。ど。隱。形。の。術。と。い。ひ。て。形。を。隠。ま。曲。者。を。そ  
 雙。言。致。す。よ。い。の。今。般。の。お。が。う。と。夢。の。い。れ。大。に。お。ご。う。さ。う。れ。昨。夜  
 土。を。車。つ。を。付。り。せ。も。彼。隱。形。の。術。に。依。り。ま。り。あ。る。好。し。若。く。は。彼。が。野。を  
 け。し。ん。も。あ。る。べ。う。さ。も。お。を。つ。け。く。見。ぬ。い。ね。お。い。ま。も。は。笑。お。を。の。べ。う。と。ひ  
 を。切。目。な。ぐ。ひ。れ。ま。ま。と。杜。能。花。も。若。い。げ。に。顔。髪。う。り。ひ。つ。つ。と。細。声。を  
 う。と。立。縛。れ。ま。り。ま。ま。と。い。ひ。ま。り。け。右。の。袂。の。み。土。を。う。つ。う。り。は。る。百。両。の  
 金。あり。妻。夫。婦。が。死。あ。ら。ぶ。も。負。目。の。と。う。け。は。空。居。虫。女。郎。に。ま。せ。て  
 才。の。ま。ま。に。貢。貢。も。人。今。ら。あ。ま。ま。お。ひ。わ。く。と。付。り。ね。ど。空。言。に。お。せ。ま。あ。ま。ま  
 かの。難。状。を。か。う。つ。つ。が。後。世。の。迷。ひ。と。な。り。ま。ん。と。女。の。お。一。条。よ。お。り。ひ。ま。ま

公のうら代お枝も不佞とくもさうて傍の桃子をさうあげふ水鉢の水をさう  
 へ坐にやもさう。丸く花ごのさるどは杜鵑花やの安公未素の蓮葉  
 の二人基るてふ徳の盃又お坊場てさうむまび迷ひをさうしひねとさう  
 おハハひおねと。唯さうお殿政をさうなり。寄居虫も信ごもて。桃子さうさ人  
 さうて。いざ杜鵑花やさうさうさうと盃をさういさつせと。お戦栗てゆり  
 さうさ。水のあらさや消さく中。浮世の夢の標花形山基さうて雀亀を法  
 燈に明日へさる。経衫の白空垢も鮮血にさうさる色車。三九度や九品乃  
 蓮臺と相さうさうさうて回春せん冥途の嫁入切平さうさうお坊焼や  
 門火も東風は煙へ西へさうさうさう。時さう遠さうさう杜鵑花眠るさ  
 とうと輝後さうさうさうさう。お枝寄居虫の對ひ。さう娘別添のさうさ其方さうさ  
 二人ハ又お歎とさう。お枝寄居虫の對ひ。さう娘別添のさうさ其方さうさ

存令さう。貞操さう。端正さう。勝負さう。梅様茶のむをさうさうさう。唐詩九文を  
 推さう。中着人のさうさう。お枝寄居虫の對ひ。さう娘別添のさうさ其方さうさ  
 祥のやさうさう。お枝寄居虫の對ひ。さう娘別添のさうさ其方さうさ  
 世のさうさう。お枝寄居虫の對ひ。さう娘別添のさうさ其方さうさ  
 杜鵑花や。さうさう。お枝寄居虫の對ひ。さう娘別添のさうさ其方さうさ  
 多羅尼。お枝寄居虫の對ひ。さう娘別添のさうさ其方さうさ  
 世のさうさう。お枝寄居虫の對ひ。さう娘別添のさうさ其方さうさ  
 出逢州の。お枝寄居虫の對ひ。さう娘別添のさうさ其方さうさ  
 下をさう集首尾をさうさう。お枝寄居虫の對ひ。さう娘別添のさうさ其方さうさ

在るにあらぬ。曉の頃、小の家路にあら、列去り

非人の家、良治雨の小止をよ

袖乞の娘茶をよ、良治まの事

八

扱も其後、浅間巴、忠良治の妻の余波を去、ぬまで、ぬ高とあり、あじ若く、  
多に一日、小嶽の物人、やき、地り、流るる、ひの前、にさ、と出て、や、るる、君、あ、し  
め、さ、も、や、頃、日、所、の、五、郎、彦、等、の、恨、あ、り、て、る、田、字、草、の、於、君、遠、州、を、殺  
害、せ、し、ま、さ、の、風、流、あ、り、小、子、彼、れ、に、往、り、詳、の、と、誠、中、果、べ、し、と、い、ふ、人、を、ま、を、  
巴、思、う、ら、ち、ひ、を、と、て、ま、我、も、風、に、安、り、今、宵、階、の、曲、中、に、つ、り、待、の、や、法  
探、向、へ、し、く、く、小、嶽、の、物、一、人、を、俣、し、忍、び、ち、の、鼓、を、と、ら、出、書、あ、つ、り、あ、る  
五、条、坂、の、比、方、が、地、の、幸、に、さ、り、あ、る、ま、い、ら、る、あ、い、さ、さ、か、ち、る、流、に、を、ひ、て、爛、熾、と  
受、乱、ま、さ、る、梅、の、丈、樹、あ、り、巴、思、う、少、時、樹、下、に、傍、皇、刀、の、柄、に、扇、う、ち、あ、け、遠、近、を

花の水の隨意流き中をうち、良治殆、良治の落花の雪の、  
るまで、ま、の、重、と、わ、く、と、扇、を、も、り、く、拍、子、を、朗、詠、あ、り、ま、さ、バ、忽、地、脊、の

か、の、声、あ、り、山、復、深、樹、の、昏、に、似、し、ま、い、ら、る、目、の、ま、よ、頃、ま、ど、く、く、ふ、を、あ、る、あ、  
か、の、く、く、ま、い、ら、る、二、八、を、あ、り、の、少、女、は、中、水、を、桶、に、扱、さ、る、彼、も、花、の、ま、ど、れ

て、イ、ち、ま、り、熟、初、る、よ、紅、粉、を、粧、い、さ、れ、ど、も、天、性、の、美、形、玉、の、ま、ど、く、絶、て、愛、柳

も、さ、ら、ま、ど、く、と、見、之、海、松、の、ま、ど、く、乱、ま、さ、る、思、髪、も、よ、ろ、ひ、あ、り、て、い、と、く、あ、い

け、や、ま、り、あ、い、ら、ま、ど、く、巴、思、主、従、と、顔、を、ま、い、ら、せ、め、い、ら、め、の、竹、笠、を、扱、い、ん、性

して、堀、を、め、ぐ、り、立、ま、り、ぬ、良、治、も、あ、り、く、急、い、び、ま、り、路、を、わ、く、ぬ、く、行、等、の、の

ぞ、と、く、く、彼、少、女、の、後、に、つ、い、く、三、丁、を、あ、り、性、々、が、は、み、ら、ま、り、市、中、に、遠

ざ、ら、り、竹、樹、蒼、翠、に、て、沙、石、鮮、明、と、あ、り、ま、い、ま、り、や、あ、る、雨、静、の、佳、境、在、ん、と、い

九

九







九  
山  
青  
堂  
藏

九  
山  
青  
堂  
藏



巴之岷山條坂い  
 通路小く  
 寄居虫  
 家  
 五やう  
 五やう  
 五やう

新  
着  
譚  
卷  
之  
四

九  
山  
青  
堂  
藏

二並く。夜宵の衣最寒し。袖とまでやうさう。似えらるゝと。知れり。
 亡父の養う。一時うして。嗜む道なき。捨ちやう。霞を憐れ。
 ともれちやも。学びひらう。といひつる。巴し。咀益嗟嘆。孝公のひ美
 形とのひ勝者らぬ。弱女を埋本と。惜ま。そ。先け。
 ある人。見つけ。一樹の蔭に。雨を防。一河の流を。及。
 縁と申。其方の。ま。芳茶一服。牙を。せんと。宣へ。少女。
 舟を。お。怪。伝。の。の。の。の。
 つで。君。罪。申。推。良。
 言。夫。茶。和。朝。の。風。俗。花。車。の。一。其。原。の。禪。学。の。出。
 世。の。閑。境。の。推。摩。が。方。丈。の。四。畳。半。を。囲。
 と。貴。と。賤。を。論。強。く。止。再。三。の。望。の。少。女

古今の拾を。根む負の緋服紗も。花にまがや。梅炭雪の白炭。
 へり。と。色。げ。の。金。の。の。の。の。
 て。客。登。へ。鮭。川。の。茶。碗。出。の。品。て。の。の。濃。茶。一。杯。調。
 出。主。の。客。の。貴。人。林。奇。の。茶。舎。の。良。治。の。支。那。の。試。稱。
 且。眼。の。ろ。ろ。の。を。漬。か。う。喫。や。と。有。く。石。思。や。俄。に。眠。り。
 温。柔。の。良。治。臂。を。曲。て。枕。の。く。其。ま。眠。着。ぬ。て。少。女。の。帝。門。を。ひ。
 の。位。牌。を。と。う。て。茶。を。供。い。焼。香。て。ね。の。こ。ろ。の。回。向。の。小。撒。の。助
 不。牛。の。位。牌。を。見。ま。ら。俗。名。逢。州。と。ま。つ。け。の。扱。の。才。も。逢。州。主。の。由。縁
 ある。か。なり。々。其。が。主。君。と。や。う。の。ひ。り。て。言。ま。を。止。少。女。云。
 へ。則。逢。州。の。妹。家。居。虫。と。の。老。の。信。の。君。も。又。行。等。由。縁。あ。り。て。婦。人
 の。一。は。同。せ。の。同。の。小。撒。の。助。又。曰。位。牌。を。の。の。の。の。

丸

二

逢州ぬん非今に死せらるるのあらん<sup>おぼ</sup>悲<sup>ひ</sup>の<sup>ん</sup>と<sup>ん</sup>成<sup>る</sup>る<sup>ん</sup>一<sup>つ</sup>と<sup>ん</sup>悲<sup>し</sup>敷<sup>い</sup>なり<sup>か</sup>る<sup>ん</sup>ハ  
 ともま<sup>り</sup>家<sup>の</sup>居<sup>る</sup>出<sup>る</sup>ハ<sup>し</sup>つ<sup>の</sup>其<sup>の</sup>公<sup>を</sup>し<sup>る</sup>を<sup>し</sup>る<sup>を</sup>お<sup>の</sup>枝<sup>が</sup>ゆ<sup>つ</sup>つ<sup>と</sup>逢<sup>州</sup>の<sup>柱</sup>の<sup>い</sup>は<sup>は</sup>を<sup>ま</sup>  
 ハ<sup>良</sup>治<sup>が</sup>根<sup>に</sup>し<sup>ら</sup>け<sup>け</sup>風<sup>波</sup>防<sup>は</sup>ま<sup>も</sup>も<sup>最</sup>信<sup>が</sup>ま<sup>し</sup>て<sup>こ</sup>の<sup>こ</sup>の<sup>小</sup>徹<sup>の</sup>助<sup>ち</sup>ち<sup>く</sup>三<sup>三</sup>  
 よ<sup>う</sup>ハ<sup>才</sup>逢<sup>州</sup>ぬ<sup>の</sup>妹<sup>と</sup>あ<sup>ら</sup>言<sup>ふ</sup>一<sup>つ</sup>言<sup>ふ</sup>一<sup>つ</sup>言<sup>ふ</sup>せ<sup>ら</sup>る<sup>と</sup>ま<sup>ら</sup>う<sup>は</sup>此<sup>の</sup>い<sup>は</sup>は<sup>の</sup>て<sup>洋</sup>の<sup>上</sup>成<sup>る</sup>る<sup>ん</sup>  
 ぬ<sup>ハ</sup>主<sup>君</sup>の<sup>眼</sup>を<sup>妨</sup>ん<sup>け</sup>方<sup>ハ</sup>ま<sup>ら</sup>ぬ<sup>一</sup>こ<sup>と</sup>。次<sup>の</sup>間<sup>に</sup>透<sup>り</sup>たり<sup>なり</sup>

東海道後伏見州執事譚四之卷 終

ワカ



